



自然を見つめる心を育てよう 子ども自然クラブ活動中！

昨年9月から活動をスタートした「綾ユネスコエコパーク子ども自然クラブ」。地元の自然を愛し、研究していく子どもたちを育成しようと、昆虫の観察や採集、標本作成を通して自然を探索する活動を行っています。

綾町は2012年にユネスコエコパークに登録されましたが、自然を保護し、豊かに残すことが



標本づくりに挑戦中

人々の生活の豊かさにつながることを実現するユネスコエコパークのまちにとって、研究や活動の充実は欠かせないものです。ユネスコエコパーク推進室は、町内外の研究機関・団体の支援や生涯学習、小・中学校の環境教育の支援を行っています。詳しく深く自然について知りたい・調べたいという子どもたちの探求心を大切に育てていく支援を、この子ども自然クラブで行っています。

メンバーは、小学生6人と中学生2人。毎月第2・第4土曜日に自然観察や採集をしています。三本松橋下流の綾南川左岸堤防周辺や役場裏のビオトープ「綾トープはっけん島」、錦原運動公園周辺などが主な調査地です。

秋からの活動なので、採集できた昆虫の多くは赤トンボやバツタで、雨の活動日にはそれらの標



快晴に恵まれた昨秋の昆虫採集

本づくりと名前調べが進んでいます。自作の標本箱に、できあがった昆虫標本をそつとおさめる子どもたち。好奇心でいっぱい、のまなざしや熱中する姿に、子ども時代の自然体験の大切さが実感される時間です。

指導・支援は、エコパーク推進室の木野田専門監に加え、綾小学校や同尾立分校に赴任したことがある元教員の中尾景吉さんがあたっています。4月からは、春にしか見られない昆虫や、初夏、夏にかけて種類も数もグッと増えるチョウ、クワガタムシ、カブ

トムシなどの昆虫の調査をしていく計画です。調査エリアを広げるなど新しいチャレンジも始められたらと考えています。

子ども自然クラブは、4月に新年度の会員を募集する予定です。参加は無料（標本作成などは一部実費が必要）で、町内の小・中学生が対象です。一緒に自然の中で遊びながら、学びを深めていきましょう！詳しくはお問い合わせください。

■問い合わせ先／

綾ユネスコエコパーク推進室

☎77-3482

※ユネスコエコパークセンターの休館日は毎週日・月曜日および祝日

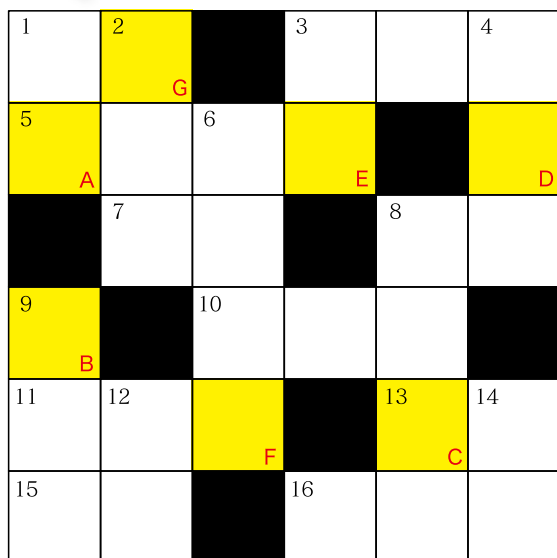


關璃音さん作チョウとトンボの標本

クロスワード

人と会話をする際は必ず □□□□□□□！

黄枠の文字をアルファベット順に並べ替えると、答えが出てきます。クロスワードを解いてみましょう。



※答えは4月号に掲載します

2月号のシルエットクイズの答え

答え ニホンカモシカ



ータテのカギー

- 1 花の形が熊谷直実が背負った母衣(ほろ)に似ていることから名づけられたランの仲間 ○○ガイソウ
- 2 茎や葉をかむと酸っぱいことから名づけられた植物。漢字では「酸い葉」 ○○○
- 3 強く節があり、工芸品や食用に広く利用されるイネ科の植物
- 4 田んぼの周辺で光沢のある黄色い花をつける ○○○ノボタン
- 6 鹿児島県の高隅山系で見つかった腐生植物で、地名にちなんで○○○○ソウと命名
- 8 茎や葉にある細いトゲが刺さると痛くイライラすることから命名。漢字では「刺草」
- 9 葉が深く切れ込んでいて田んぼが透かして見えることから命名。○○○タゴボウ
- 12 細長い花筒の奥に蜜があり、子どもが好んで花を吸っていた ○○カズラ
- 14 根を乾燥させて薬にしたことから竜胆と呼ばれる秋の野草 ○○ドウ

ーヨコのカギー

- 1 虫よけに使われる木で綾神社にも巨木がある ○○ノキ
- 3 毛深いずんぐりしたタネをつける様子のある動物に見立てて ○○○マメ
- 5 朽ち木に生えるおいしいキノコで見つけると舞うほどうれしいことから命名
- 7 場所や時期を間違えて生えてきた頭の悪いマツタケと勘違いされて命名 ○○マツタケ
- 8 秋の七草のススキは○○科の植物
- 10 マメ科植物で毒があり、食べるとくらくらすることから命名。漢字では「眩草」 ○○○クサ
- 11 大きさがカラスノエンドウとスズメノエンドウの間という意味で命名 ○○○グサ
- 13 秋の味覚。実はイガがついた堅い殻に覆われている
- 15 春に照葉大吊橋周辺で黄色い花を咲かせる樹木で実は食べられる ○○ノキ
- 16 節が膨らむホテイチクは別名○○○チク。春の味覚。

column

ニホンカモシカ

シカと名前がついていますが、今年の干支であるウシに近い仲間です。日本だけに分布し国の特別天然記念物に指定されています。

角はオスにもメスにもあり、骨が発達してできているためシカのように毎年生えかわることはありません。

岩場や急斜面のある森林に住み、木の葉や芽、花などを食べています。綾町は国内でもニホンカモシカの分布の南端に位置しており、非常に重要な生息地になっています。近年、ニホンジカの数が増えたために、エサが不足してニホンカモシカが激減し、九州の個体は絶滅の危機に瀕しているといわれています。生態系のバランスに配慮しながら森を守っていく必要があるのです。

